

### 新宿周辺のお富士さん……都心にも残る富士山

足立区、江戸川区にはたくさんの富士塚が残っている。江戸の田舎の庶民の信仰心の現れで、商人や武士の多かった山の手には、富士塚は少なかったのではないかと思っていた。実際、千代田、港、目黒、渋谷、中野、杉並、世田谷などの区にはほとんど残っていない。

しかし新宿界限には、いくつか集中して富士塚が残っている。新宿あたりは特別なのか、あるいは昔はど田舎だったのか、いずれにしても庶民文化が強いのこっていた場所なのだろう。

- 西落合富士……八幡様にある富士塚、幼稚園の敷地なので外から見るだけ
- ◆神田川の碑……あなたはもう忘れたかしら……
- 成子富士……天神さんにある。山頂に木花咲耶姫の像。正月のみ入場可。
- 鬼王富士……鬼王稲荷神社。破壊されたが、熔岩は残っている。
- 花園富士……花園神社境内。芸能人が参拝。藤圭子の歌碑あり
- 西向富士……西向き天神にある富士塚。斜面に造られ立派。
- ◆千駄ヶ谷富士……鳩森八幡にある大きな富士塚。いつでも登れる。



みわ塾 講座 三輪主彦 (みわかずひこ)  
〒173-0023 板橋区大山町 33-6 090-9827-8340  
ホームページ <http://kazmiwa.web.infoseek.co.jp/>

## 上落合富士 八幡通の富士塚、

### ■下落合 八幡通り

西武新宿線、高田馬場の次の駅が下落合。落合というのは神田川と妙正寺川が落ち合ったところだ。昔は洪水が頻繁に起こったので、今は神田川と妙正寺川は分離されているが、最近は落合の水処理場の水を妙正寺川に流しているの、やはり落合である。妙正寺川は新目白通りの下を流れ、明治通りの高戸橋で合流している。

下落合の駅前を流れているのが妙正寺川で、それに直交するの道路が八幡通である。この通りを小滝橋（おたきばし）の方へ進むと左手に大きな施設が出てくる。これは落合の下水処理場（現在の名称は水再生センター）である。昭和39年オリンピックの年に造られた巨大な処理場で、処理された水は渋谷川、目黒川、呑川まで地下トンネルで運ばれて都会の川の浄化に貢献している。そんなに遠くまで運ばれているとは思って見なかった。

### ■月見岡八幡神社（新宿区上落合 1-26-19）

処理場前に八幡公園がある。そこに昔の月見岡八幡神社があったが、現在は公園のさらに上の方に移転している。いつ移転したのかは不明なので聞いてみよう。もの本には下水処理場ができたときと書いてあるが、それは昭和39年だから、ちょっとおかしい。もっと前に移転しているのだから。

社伝に「源義家奥州征討以前の社にして、義家当社に参詣して戦捷の祈願あり。当時其手植せる松樹一身幹、徳川氏の代いつの頃か枯死し、根幹のみ年久しく社殿背後に残存せし由也」とある。昭和二十年の空襲により灰燼に帰したが、昭和二十三年本殿を二十九年社務所を再建した。」とある。

源義家は八幡太郎義家、京都の石清水八幡宮で元服したのでその名がある。その義家由来の神社なのだから八幡様になったのだ。

祭神は

応神天皇（ほんだわけのみこと）

神功皇后（おきながたらしひめ）

仁徳天皇（おおささぎのみこと）

普通八幡神社には仁徳天皇は祭られていないのだが、ここでは入れてある。応神は15代、仁徳は16代天皇である。神功皇后は応神天皇の母。八幡神社の総本宮は宇佐八幡。鎌倉の鶴岡八幡、京都の石清水八幡はその分社である。



この神社は幼稚園を併設しているので、鳥居の前に門が作られているので、勝手にはいることはできない。一声かけて、怪しい者ではないとお願いして入れてもらおう。

## ■落合富士

上落合富士と書いてある本もあるがまあ落合富士でいいのではないだろうか。現在はその痕跡はほとんど残っていないが、江戸時代まではこの辺りにはたくさん古墳があったという。月見岡八幡の境内にあった富士塚も古墳の上に築かれていたという。

現在は本殿の裏側に富士塚も移築されている。熔岩をはり付けた塚で、高さは 2.5mほど。お願いすれば登ることも可能である。



いい写真がないので、とりあえず頂上の祠の写真を入れておきますが、この祠に何と書いてあったか、浅間神社とか、覚えていないので今回ちゃんと確かめてみたいと思っています。

## ■小滝橋、神田川

八幡神社をでて小滝橋に向かいます。おたきばしと読み、都バスの車庫があるので地元の人にはなじみ深い名前である。小滝橋の由来は「いなげや」の脇の石碑に書かれている。何だったか確かめてみたい。

ここから神田川を遡ってみよう。この川の水源は井の頭公園の泉で、杉並、中野、新宿区を通り、江戸川橋から飯田橋の外堀に流れ、水道橋、お茶の水、秋葉原、両国橋で隅田川に注いでいる。神田川の遊歩道を上流に行くと中央線のガードをくぐる。さらに進むと大久保通りに架かる末広橋があるが、そのたもとに「神田川」の歌碑がある。この辺りに「横丁の風呂屋」があったのだろうか？ちょっと違うみたいなのだが、・・・

## ■蜀江坂

柏木小学校から柏木地域センターをとおり、ちょっと大きな通りに出る。この坂道は「蜀江坂」という。なぜこんな名前なのか、説明版があるので調べてください。

**成子富士、成子天神社にある富士・頂上には木花咲耶姫の像がある。**

## ■成子天神社（新宿区西新宿 8-14-10）

蜀江坂を下って大きな通りに出る。これが青梅街道である。この道を新宿大ガード方面に登っていくと左手に鳥居が見える。奥の方にもう一つ鳥居があり、その奥に成子天神社がある。

天神さんは菅原道真を祭る神社で、九州の太宰府天満宮が総本宮で、東京の湯島天満宮もここから勧請された宮である。天神さんは学問の神様で、受験生の参拝が絶えない。

◆天神さんといえば牛、来年は丑年なので大いに賑わうだろう。後樂園の近くに牛天神という社があるように、天神さんと牛は切っても切り離せない。

なぜ牛なのかは諸説がある。

1. 道真の生まれた年が丑年
2. 道真が亡くなったのが丑月の丑日
3. 道真は牛に乗り大宰府へ下った
4. 牛が刺客から道真を守った

#### ◆天神さんと梅

菅原道真が大宰府左遷の時に詠んだ歌。  
「東風(こち)吹かば 匂い起こせよ 梅  
の花 主なしとて 春な忘れそ」

その梅が道真を慕って、一晩のうちに大宰府に飛んでいったという「飛梅伝説」

がある。この伝説から天神さんい梅の木がある。例えば、湯島天神は湯島の白梅。成子天神には牛や梅があるのだろうか？



#### ■成子富士

新宿区登録史跡 平成二年六月一日登録

大正九年（1920）成子天神社境内にあった天神山を改造して、区内で最後に築造された富士塚である。熔岩で築き、山つつじを植えており、高さは約 12 メートルと比較的大規模なものである。富士塚は、江戸時代中期より、江戸の商人・職人・農民の間に盛んになった富士信仰の遺跡である。同業者を中心に富士講が組織され、社寺の境内に小富士を築いて崇拝し、管理運営を行った。成子天神社の富士塚は、柏木・角筈地域の人々で組織した丸藤講が運営にあっていた。なお、塚の斜面をめぐる七福神像は、昭和五十八年（1983）に新造されたものである。

平成三年一月

東京都新宿区教育委員会

都内でも有数の大きさを持つ富士塚であるが、囲いがしてありふだんは拝観することもできない。1月の6日までだけ麓にある七福神巡りができるように、門を開けてくれるので、我々も富士塚を拝むことができる。上の説明にあるような12mはちょっと誇大広告で、実際には8m程度ではないかと思っている。

登山道は表裏があり、小御獄神社も人穴もあり典型的な富士塚である。しかし富士塚の頂上には木花咲耶姫の大きな像が造られている。さらに斜面には七福神が奉られているが、これらは本来の富士塚とは何の関係もない。こんなことをしたので重要有形文化財にはならなかったのだろうと私は思っているのだが……！

富士講の石碑はどんなものがあるか調べてみよう。

## 西大久保富士、歌舞伎町のど真ん中、稲荷鬼王神社にある富士塚の半身

### ■稲荷鬼王神社（新宿区歌舞伎町 2-17-5）

いまや韓国人町になった感のある旧職安通り、その歌舞伎町側に稲荷鬼王神社がある。社伝には次のように書かれている。

もともと大久保村の聖地であったこの地に氏神として稲荷社が建てられた。その後大久保の百姓・田中清右衛門が紀州熊野から鬼王権現（月夜見命・大物主命・天手力男命）を勧請し、稲荷神社と合祀して稲荷鬼王神社となったという。

厄除福寿の鬼王の名を持つ全国唯一の宮として、江戸時代には地元民、江戸からの武士や商人、職人と多くの人が参拝した。また新宿山の手七福神詣での恵比寿様であるため、恵比寿様とも呼ばれる。湿疹・腫物などが出た人は、鬼の好物である豆腐を献納し、治るまで豆腐を断ち、当社の「撫で守り」で患部撫でると治癒するといわれた。

鬼は神であり、力の象徴であるといわれた。全ての災禍を祓う力があるということから当社の豆まきは「鬼は内、福はうち」と唱えて豆をまくという。鬼王というのは平将門の幼少の頃の名前であるが、祭神には将門の名は見えない。

祭神は

稲荷社の 宇賀能御魂命（うがのみたまのみこと）

鬼王社の 鬼王権現（きおうごんげん）[月夜見命（つきよみのみこと） 大物主命（おおものぬしのみこと）天手力男命（あめのたじからのみこと）]

と二種類の神様を祭っている。

### ■西大久保富士（浅間神社 御祭神名 木花咲耶姫命）

昔は西大久保の厄除け富士といわれた。古よりここにあった浅間神社は、明治 27 年、稲荷鬼王神社に合祀され、昭和 5 年 西大久保の厄除け富士として復興され、霊峰不二の石をはじめ全国からの銘石をとりよせ建立された。そのつくりは、平坦な場所にとりよせた石を積み上げて造りあげたため、特色のある富士山だった。しかし戦争中の空襲により、石の基盤がゆるみ崩れた。その石を二カ所に寄せ集めた。今は一合目から四合目と五合目から頂上までと二つにわかれた形になっている。こんな形で復元した富士塚はここだけである。珍しいというか、ズボラというか……



しかし登山道、頂上の祠、小御獄神社、人穴など富士塚の要素をきちんと残している。もとの富士さんは立派なものだったことが推測される。富士講の石碑もいくつか残っている。どんな講だったか、調べてください。

## 花園富士、花園神社にある芸能人の参拝がやまないお富士さん

### ■花園神社（新宿区新宿 5-17-3）

新宿区役所の裏手のゴールデン街のさらに裏手にある。というが表参道は明治通側にある。花園神社とはなんとも色っぽい名前だが、もともとは稲荷神社で、花園稲荷神社とよばれ、新宿の総鎮守であった。稲荷神社なので祭神は倉稲魂神（うがのみたまのかみ）である。しかしこの酉の市は大変有名である、ということはこの神社は大鳥神社でもあるということだ。祭神は日本武尊（やまとたけるのみこと）である。

創建年代は不詳。徳川家康が来る前からあったといわれる。戦争で社殿は焼かれたが何回も立て直され、昭和40年はコンクリート製の社殿になった。その時に境内にあった大鳥神社が格上げになり、稲荷神社と同一殿に合祀され、花園神社と称されるようになった。花園神社という名前はけっこう新しい名前なのだ。

ちなみに境内にある威徳稲荷神社は赤い鳥居が並んでいるが、その奥にはなかなかおもしろいものが祭られているので、ぜひご覧を！

### ■花園富士

明治通側の鳥居をくぐり、右手の狭いところに芸能浅間神社がある。お富士さんは高さ1mほど、頂上には浅間様の祠がある。

石垣は芸能人の奉納でできているようで、多くの芸能人の名前が赤い字で書かれている。浅間神社の前に芸能と書かれているのは愛嬌なのか、本心なのか。もともとは富士山の神様、木花咲耶姫を祭る神社なのだ。木花咲耶姫は超美人だが嫉妬深いので、女性が富士さんに近づくことを喜ばなかった。しかし江戸に作られたミニ富士山は女、子供も登ることができた。ここなら女優さんも女性歌手も詣ることができたのだ。その中でも新宿の女である藤圭子が代表であるようで、「夢は夜ひらく」の歌碑が正面に立てられている。ちなみに「新宿の女」の歌碑は次に行く「西向天神」にある。



写真の最初に名前がある唐十郎は1967年花園神社の境内に紅テントを建て、『腰巻お仙』を上演した。アングラ演劇の旗手であったが「腰巻き」はけしからんと排除された。しかし威徳稲荷神社の飾られているモノはもっとけしからんに、何で問題にならないのだろうか。

## 東大久保富士、西向天神社ある お富士さん

### ■西向き天神（新宿区新宿 6-21-1）

新宿区役所からゴールデン街をとおる遊歩道がある。これは昔の都電の線路跡で、たどっていくと新宿文化センター前を通り、抜け弁天に出る。文化センター脇から天神小学校の横をとおると目の前に見上げるように西向天神社がある。

ここは東大久保村の鎮守。太宰府の天満宮の方へ向かい社殿を西向きに造っているために昔から呼び慣らわされた。祭神はもちろん菅原大神だが、稲荷大神、秋葉大神、巖島大神も祭っている。

### ■東大久保富士

西向天神社の境内、西南の一隅の崖の斜面に築かれている。高さは2mほどで、溶岩を積み上げ、固められている。頂上には「日之尊」と刻んだ根府川石の碑が立てられている。日之尊とはだれのことなのか？

頂上への登山道は石の階段になっている。右側には弘化2年（1845）に西大久保丸谷講の石碑がある。大正14年（1925）再築の記念碑がある。

天神社の境内からみると小さな富士塚のようなのだが、天神社自体が高台にあるので、下から見上げるとかなり大きい（10mほどか）ことがわかる。もとは駐車場の場所から広がっていたようだ。公園に到る石段を登ると富士塚の背後が見える。石碑も多くある。どの講が立てたものか調べてください。

正面階段の右側に「浅間神社」と刻んだ石の標柱（大正15年6月造立）と「富士山一合目」と刻んだ石の標柱があり、この奥に斜面を利用してボク石で洞窟（胎内）があるそうだ。私は見ていないので、調べてください。



## 千駄ヶ谷富士、渋谷区唯一、大きく立派なお富士さん

### ■鳩森八幡宮（渋谷区千駄ヶ谷 1-1-24）

当社の鎮座は、神亀又は貞観年間と伝えられ、千駄ヶ谷一帯の総鎮守として村民の崇敬が篤かった。江戸名所図会によれば「この地に瑞雲現じ 白気降り 白鳩多数西をさして飛び去れり その靈瑞を称し鳩の森という」とある。平成五年社殿落成。

八幡様だから当然 応神天皇と神功皇后を祀る。神楽や能を奉納する神楽殿は能楽堂のようである。実はすぐ近くに国立能楽堂があるのだが、関係があるのか？

近くに将棋会館があるが、それにちなんで将棋堂という六角堂がある。内部は天童市から送られた巨大な駒が奉納されている。

### ■千駄ヶ谷富士

八幡宮も立派なのだが、私にとって一番の見所は富士塚だ。下谷坂本、長崎、江古田の三つは国指定の文化財だが、こちらの方がはるかに立派だと思うのだが……。こちらは東京都指定の民俗文化財である。他の文化財の富士塚は囲いがしてあり登ることはほとんどできないが、こちらは庶民的でいつでも登ることができる。それが私たちにはうれしいのだが、権威はないのかもしれない。



#### 千駄ヶ谷の富士塚（東京都指定有形民俗文化財）

この富士塚は寛政元年（1789）の築造といわれ、円墳形に土を盛り上げ、黒ボク（富士山の熔岩）は頂上近くのみ配置されている。山腹には要所要所に丸石を配置し手織、土の露出している部分には熊笹が植えられている。頂上には奥宮を安置し、山裾の向かって左側に木造の里宮の建物がある。

頂上に至る登山道は正面に「く」の字形に設けられ、自然石を用いて階段としている。七合目には洞窟つくられ、その中には身祿像が安置されている。塚の前面には池があるが、この池は塚築造のため土を採掘した跡を利用したもので、円墳状の盛り土、前方の池という形は江戸築造の富士塚の基本様式を示している。

この富士塚は大正十二年（1923）の関東大震災後に修復されているが、築造当時の旧態をよく留めており、東京都内に現存するものではもっとも古く、江戸中期以降、江戸市中を中心に広く庶民の間で信仰されていた富士信仰の在り方を理解する上で貴重な資料である。昭和五十七年三月三十一日 建設 東京都教育委員会

### ■次回 ■ 2月9日（土） 板橋区のお富士さん

東武東上線・東武練馬駅 10:00 集合

北町富士、下練馬富士、東京大仏、上赤塚富士、下赤塚富士、徳丸富士・

東武練馬駅 解散

### ■次次会 ■ 3月6日（木） 富士吉田の富士北口浅間神社、甲斐一宮の浅間（あさま）神社参詣。

### ■ 4月からは月一回不定期に榎町地域センターで「みわ塾」を開催します。